

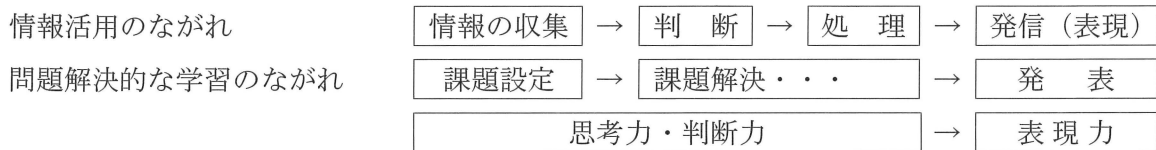
# 思考力・判断力・表現力の育成に向けた技術・家庭科（技術分野）の学習

## 1 技術・家庭科（技術分野）における思考力・判断力・表現力について

技術・家庭科（技術分野）における思考力・判断力・表現力とは、問題解決的な学習の過程で培われるもので、その問題解決場面は、ものづくりの設計や、製作・制作過程、使用されている技術の適切な評価・活用場面等、さまざまな学習場面が想定される。

また「表現力」とは、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通して生徒がどのように表出しているかを示すものである。本教科の表現方法は言葉ばかりでなく、ものづくりを主体とした本教科の特性から、設計図といったものも含まれる。「表現力」を育む場合、「D情報に関する技術」との内容と関連させて、プレゼンテーション等で考えを伝え合う活動方法を取り入れることも有効であると考えられる。

昨年6月の附属中学校での公開授業研究会の技術分野の授業では、2年生の「情報」の授業が公開された。情報教育の目標の一つに、情報活用の実践力の育成がある。この力は、情報を収集、判断、処理し発信（表現）する過程を通して培われる。思考力・判断力・表現力の育成のための問題解決的な学習も、情報教育の中ではこのような情報活用の流れと類似しており、下図のように併行させて行うことが効果的であると考えられる。そのためにも、自らの課題の選択と、追求的な取組のための意欲付けと、自己表現や学び合いの場面づくりが必要である。



## 2 技術・家庭科（技術分野）における思考力・判断力・表現力を育成する学び合いとは

子どもの学びを一層深めるには、個の学びを全体の学びに広げたり、全体の学びを個の学びに生かしたりする、発表や表現活動を通じた相互の話し合い活動が必要不可欠である。

前述の公開授業研究会の技術分野の授業では、「情報」「宍道湖のしじみをプレゼンしよう～デジタル作品の設計と制作～」の題材名での2年生の「情報」の内容の授業が公開された。この授業のポイントは、「メディアの効果的な表し方」をグループの話し合いなどを通して考える点で、制作中の個々の作品修正に役立てる学習場面が取り入れてあった。そして「メディアの効果的な表し方」の基礎的・基本的な知識や技能の確認と気付きができるように、教師があらかじめ設定した課題を提示し、相互の話し合い活動によって解決し、自己の作品の修正に役立てる指導がなされていた。さらに、次の授業では子どもたちが制作した個々の作品について、グループ内での評価も交えた話し合いを行いその工夫点や修正点を行うという、2段階の問題解決的な学習が用意され、基礎と応用の両面への学習支援が工夫されていた。

## 3 技術・家庭科（技術分野）における学びをいかすということ

技術科・家庭科において、「学びをいかす」ことは、この教科目標にもあるように「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことと言ってもよい。学校で学んだ知識や技術を、さらに実際の生活の中でいかすことができる能力と態度を育てることが大切である。そのためにも、課題解決において、生活の中から課題を見付けさせたり、学習した成果をどのように生活のなかでいかしたりしていくかを、学びと生活がうまくつながるような指導の工夫が必要となる。また、題材によっては「学びをいかす」活動場面も、個々の発展的な学習として指導計画の中に、あらかじめ位置付けておくことも有効な方法であると考えられる。

（共同研究者：元島根大学教育学部教育支援センター，長澤 郁夫）